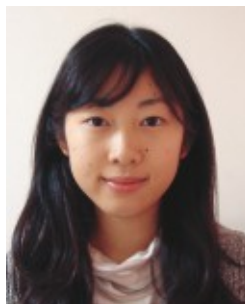


早期体験実習を終えて

コロニーにいがた白岩の里

歯学科2年 古市 奈津美



今回私たちは、早期体験実習として寺泊にある知的障害者総合支援施設「コロニーにいがた 白岩の里」に行きました。ここは、児童部、成人部、高齢期更生部、重複更生部、社会復帰部の5つに分かれて、障害を持つ方々が入所しています。私たちの班は成人部の女性寮と社会復帰部を見学させていただきました。

成人部は、重い知的障害などのため、言葉によるコミュニケーションが困難な人が多く入所しています。最初、私は部屋に入る前に恐怖心を抱いていました。なぜなら、部屋のドアをドンドンと叩いたり、大きな声を出している人が見えたからです。しかし、部屋に入ってみると、皆さんはとても大人しく、こちらに手を振ったり、私たちの列についてきたりしました。知的障害者は言葉によるコミュニケーションが苦手という話を伺っていましたが、言葉以外の方法で彼らはコミュニケーションをとろうと接してきました。私たちが障害者に対する偏見を捨てて接しあえば、お互い理解することができるのではないかと思います。この事を、将来私たちが知的障害者を治療する場合に当てはめて考えました。たとえば、治療中に痛がっても彼らは「痛い」と言って自分の感情を表現することができません。コロニーの職員の方に話を伺うと、歯科医師が蹴られたりすることがあるそうです。ここで私たちは彼らの気持ちを察して理解してあげることが重要だと感じました。しかし、「理解する」ということはそんなに簡単なことではありません。コロニーの職員の方は障害者の気持ちをちゃんと察していてすごいと思

いました。私も将来、もし障害者を治療する時があったら、彼らのことを少しでも理解して治療したいです。

私たちは次に社会復帰部を見学しました。この部は社会的自立を目標としていて、地域での生活に移行しやすいように、小集団での生活を基本単位としています。部屋もそれぞれの集団で家具が異なり、自分の家と他人の家を区別するように工夫してありました。日中は作業訓練を行っているとのことなので、どのような作業をしているのか見学しました。そこでは、ボルトの取り付けなどを行っていました。作業をしている方は真剣に手を動かして、その姿に私は心を打たれました。なかなか作業が進まない人には職員の方が優しく肩に手を置いて励ましていて、障害者に対する思いやりを感じました。この作業訓練で、仕事に必要な作業態度や持続能力を育てるなどの就労事前訓練を行い、地元の企業や事業所で職場実習をするそうです。また、中には職員の寮の部屋を借りて、アパート暮らしのような環境で生活訓練をしている方もいるそうです。

最後になりましたが、このような体験実習の機会をあたえてくださって心から感謝しています。私は、障害者とふれあうのはこの実習が初めてでした。今までは健常者と障害者は全くの別ものだと位置付けていましたが、両者にあまり違いはないように思いました。障害者には、少しだけ苦手な分野があるというだけで、それは私達健常者にも言えることではないでしょうか。この実習は、普段はあまり考える機会のない障害者やその生活について学べて、本当に有意義なものであったと思います。今回学んだことを将来に活かせるように学んでいきたいです。

早期体験実習を終えて

歯学科2年 丁 怜 真

2年生前期に行われた早期臨床実習において、障害者の方の治療を見学する機会があった。その方は成人の男性であった。拘束具をしていたが、力が強いために動きがなかなか止めることができず、ご両親が体をおさえつつ、なだめたり励ましたりを繰り返していた。また、看護師さんも様子を注視しながら周りを取り囲んでいた。そのような治療を初めて目の当たりにして私はたじろいでしまった。見学の後、インストラクターの先生は私たち学生に「顔が引きつっていた」と指摘された。たしかにそうだったかもしれないと反省した。様々な患者様があらわれて、その方々に応じた治療を行うことができないとできなければならないと強く思った。

普段見ることのない光景を見ると、やはり引きつってしまうのである。そんな中、今回は早期体験実習として知的障害者施設「ココニーにいがた白岩の里」を見学する機会を得た。

まず、企画相談室の方からココニー全体の説明を受け、児童棟を見学した。児童棟では部屋やお風呂、トイレ、食堂などを見学した。また、ダンスや運動を行う体育館や学校として使用している部屋を見学。最後に社会復帰部長さんからの社会復帰棟の説明と見学をし、作業訓練の様子を見学して体験実習を終えた。

障害者施設ならではのものを多く見学することができた。ガラス（プラスチック）が壊れにくいように弾力性のあるものになっていたり、トイレが広くなっていたり、お風呂も浅く手すりがついていて工夫のなされた設計になっていた。私が一番感心したのは食堂であった。一人一人の入居者にあわせて食事を取るときの指示が席に貼ってあることや、緊急事態に備えて何かのどに詰まってしまった時の対処法が壁に貼ってあるのに感心した。

大きな声を出す方や壁にどんと頭をぶつける方などがいて、またまた怯んでしまった。しかし、それは彼ら彼女らの嬉しさの表現だったよう

に顔を見ると感じられた。少し遠くから、少し恥ずかしそうに私たちを笑顔で見ている女の子もいた。障害者の方々と触れ合う機会、時間があると思っていたのだがあまりなかったのが少し残念ではあった。

見学させていただいた施設も昔に比べてだいぶ入所者の方が減ってきたようだ。地域で障害者と健常者が区別なく社会生活を送るのが本来の望ましい姿であるという考え、つまりノーマライゼーションの理念が浸透してきているようだ。地域で障害者の方がよりよく生活できるように今後、私たちのような医療に携わる人間の役割は非常に大きいと思う。今回の体験をよい指針にしたいと感じる。

早期体験実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 中 澤 亜香里

今回、私は新潟県知的障害者総合援護施設「ココニーにいがた白岩の里」に見学実習に行ってきました。ココニー白岩の里は児童部、成人部、重複更生部、高齢期更生部、社会復帰部の五つの部に分かれて構成されていて、たくさんの入居者の方が生活されています。

私は児童部と高齢期更生部を見学させていただきました。しかし、今回は新型インフルエンザ感染予防のため、直接入居者の方と触れ合いができませんでした。残念でした。

児童部は重い知的障害などによって言葉によるコミュニケーションが困難な方や、行動上の障害の強い方が多く入所して生活されています。

まず、児童部入居者の方が生活されている場を見学しました。部屋はとても広く中庭もあって明るく、入居者の方達が自由に楽しそうに過ごされていたことが印象に残っています。ちょうど入浴が終わった後で、皆さんはとても気持ちよさそうな表情をされていました。言葉はなくても表情がとても豊かで、入居者の方の気持ちを感じられた気がしました。また、危険物を誤飲しないように掲示物は部屋の上や外側に掲示されていたり、椅子を投げないように固定してあったり、入居者の

方の安全に配慮が行き届いていると感じました。他に遊具やウォーキングをする広い広場があったり、職員さんが「入居者の方には楽しく、安全に気持ちよく過ごしてもらいたいのです。」とおっしゃっていたことが分かったように思えました。入居者の方が治療訓練する作業室は、少し小さい学校の教室のようで、だいたい四、五人で行うということでした。

次に高齢期更生部を見学しました。高齢期更生部は障害者の高齢化にそなえ、未来を見据えて作られた部です。老化で障害が重複すること等から、個々の健康の現状維持、増進、向上を目指した活動を行っています。また一日の流れが組まれているため、自閉症の方や、突然の環境の変化を苦手とした方に対応している環境なのだと思います。

高齢期更生部はひとりひとりの個性を大切にしていって、支援がされている部なのだという印象を受けました。グループ活動や余暇活動では、いくつかの項目の中からその日にする活動を入居者が各自選択するシステムでした。たとえば畑や園芸、カラオケや卓球などの項目から自分のやりたい活動を希望して選択決定できるのです。説明を受けている時も卓球をしている音や、入居者の方の和気あいあいとした笑い声がたくさん聞こえていました。こういった活動をすることで入居者の方が主体的な生活をして、個々の自立意欲を高めた充実した生活を送る事ができるのだと思いました。他にも水族館見学や菊祭り見学といった社会生活体験や、老人ホームボランティアや民謡流しの参加などと、社会活動や社会参加、地域の方との交流活動が盛んで活発なのだと感じました。

今回、児童部と高齢期更生部の二つの施設を見学して様々なことを感じ、学ぶことができました。直接交流することはできませんでしたが、入居者の方たちの笑顔や表情を見たり、笑い声を聞いて幸せに暮らしているのだと思いました。また、とても細かい刺繍や折り紙で作られた絵などの入居者の方が作った作品にはとても驚かされ、心が温かくなりました。障害者の方は言葉の意思疎通が困難な部分がありますが、言葉の代わりに表情や作品で自分の気持ちを伝えることができるのだと

思いました。また、そういったサインを私はしっかりと感じて理解をしていくことが大切だと感じました。

掲示物の中に「一歩一歩」という言葉がありました。この言葉から個々の持つ力に合わせた生活空間があって、個々のニーズに対応しているのだと感じました。また対応していく力が私にも必要だと感じ、一歩一歩進んでいけたらと思います。

実際に障害者の方たちの生活している場を見学できたことで、自分の視野が広がったことを感じました。見学して感じたことや経験を忘れずに日々の学習や、これからの学校生活や私生活に活かしていこうと思います。

早期体験実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 大串早紀

今回、私たちは新潟県知的障害者総合援護施設「ココニーにいがた 白岩の里」に体験実習に行きました。ココニーでは、障害の程度や年齢によって、児童・成人部、高齢期更生部、重複更生部、社会復帰部があります。私たちのグループが今回見学したのは、児童・成人部と高齢期更生部です。児童・成人部では、他の施設では入所していないような重度の知的障害を持った方が、高齢期更生部ではおおむね40歳以上の方が入所しています。

最初に職員の方から施設の概要や沿革についての説明を受けてから、施設見学に移りました。ココニーが開所した当時から使われているコンクリートの通路を抜けると、木の温もりが感じられる明るい建物である成人棟に着きました。成人部の方が、普段どのような環境の中で生活しているのかということがわかりました。天井のステンドグラス、リラックスルームにあった映写機のように、入所者の方の精神状態を配慮したものが多くありました。また、下駄箱に靴のイラストが描かれたシールを貼り、散歩や靴を履いたり脱いだりすることが嫌いな人のために、まず視覚的なイメージを持たせて行動しやすくするという工夫が見られました。しかし、職員の方から、知的障害者の方にとっては様々な工夫しすぎても返ってス

トレスになる場合も多いという話をお聞きしました。実際に、車いす用の広いトイレでは、中のものでいたづらをしてしまう方や、特に自閉症の方では掲示板にきれいに飾った紙などをすべて剥がしてしまう方がいるそうです。

入所者の方については、成人部では幅広い年齢層の方が一緒に生活していて、自分の感情や好奇心にとっても忠実に行動するという特徴があることを知りました。たとえば、40度の高熱が出た場合でも食欲がなくならなかつたり、注射を打とうとする医師に反発しようとしたりするそうです。

今回は、インフルエンザが流行していたことで、入所の方と直接コミュニケーションをとる機会がなく、とても残念でした。しかし、今回の実習を通して、知的障害者の方の現状、施設の工夫、職員の方の姿勢などについては深く学ぶことができましたと思います。私は特に、職員の方々の温かい

姿勢が素晴らしいと感じました。私たちがコロナーを見学したのはほんの数時間でしたが、入所者の方に常に明るく平等に接し、理解しようと努める態度、心から入所者の方とのコミュニケーションを楽しんでいる様子、そこから生まれる強い信頼関係などを感じ取ることができました。

また、一人一人のニーズにあった対応の難しさについても、改めて感じました。今回は知的障害者の方という視点からでしたが、このことは障害者に限ることだけではなく、将来関わるであろう歯科医療や福祉の現場においても、必ず通じるものがあると確信しています。今回の実習で学んだことを生かして、まずコロナーの職員の方々のような温かい姿勢で患者様を心から理解し、少しでもサポートすることができるよう、これから努力していきたいと思います。

